

令和6年度第3回 静岡県立伊豆の国特別支援学校
伊豆下田分校学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年2月5日(水) 午前9時30分から11時30分まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校 図書休養室

3 参加者

学校運営協議会委員

氏 名	所 属 等
高橋 栄彦	広岡西区 区長
村木 康隆	社会福祉法人伊豆つくし会ワークあおぞら事業所長
黒田 恵美	伊豆の国特別支援学校伊豆下田分校PTA会長

学校教職員

職 名	氏 名	所 属 等
校 長	松本 仁美	
副校長	廣瀬かよ子	
部主事	鈴木 雅枝	小学部
部主事	鈴木 理史	中学部
教 諭	高木 晶	教務課長 小学部

4 内 容

- (1) 学校見学・授業参観
- (2) 校長挨拶
- (3) 令和6年度学校評価について
- (4) 協議テーマ『地域とともに歩む学校づくり～地域の資源や人材を活用した学習活動～』
- (5) 令和7年度学校経営計画について
- (6) コンプライアンス委員会

5 議事録

○校長挨拶

校長：インバウンドの影響で、街や駅でたくさんの外国人観光客を見かける。高齢化や過疎化も著しい中でたくさんの来日外国人を見ながら、日本や子供たちはこれからどうしていくのか。これまでやってきたことややっていかなくてはいけないことを見極めて、世の中に合わせて新しい学校づくりを進めていきたい。

○令和6年度学校評価について

○協議テーマ『地域とともに歩む学校づくり～地域の資源や人材を活用した学習活動～』

○令和7年度学校経営計画について

副校長：学校自己評価・保護者評価・令和7年度の経営方針案について説明

委員：食育は「命をいただいている＝命の大切さ」を学ぶ機会として大事にした

い。

委員：保護者として、家庭では食べない苦手なものも、給食では食べるという効果を感じる。地域の食材なども、より一層取り入れてほしい。

校長：伊豆の国特別支援学校本校では、地域や外部機関と連携した食育で、地域の農家から食材をもらい、栽培過程を学んだり、生徒が野菜を下処理したりするなどの取り組みを行っている。

委員：防災は、その都度意識していくことが大事。とっさに、消火器やAEDの場所が思い浮かぶように、繰り返し訓練している。さらに施設では利用者も一緒に訓練に参加し、「自助」の力もつけている。

委員：防災において、地域との顔合わせや一緒に行う訓練は必要。

委員：障害理解では、障害でひとくくりに捉えるのではなく個性として捉え、よさを見ていくことが大切。施設では、悪いところではなく良いところを多く記録していくように心がけている。

委員：キャリア教育として、子供も大人も挨拶は大事である。いろいろな場面で「ごめんなさい」と謝りが多い風潮があるが、「ありがとう」のお礼や感謝に置き換えて言えることのほうが大事であると感じる。

委員：地域との連携では、この地域で分校の存在は認知されている。竹灯籠や観光客へのコースター配布などの取り組みが良い。より地域での学習活動の機会が増えていくことを望む。

委員：高齢化地域である。高齢者との交流を充実させていってはどうか。

委員：施設でも自分たちのことや活動を知ってもらうために、出て行くようにしている。防災にもつながる。

幼少期から、障害のある方とかわるくわりの大切さを感じる。小学校に併置の伊豆下田分校の良さを感じる。また街中にある利便性もより生かしたい。

委員：一緒にいることや何かすることが、周りの人や地域や社会への刺激になる。

校長：共生社会を目指すが、一人一人その考え方や捉え方は違う。学校にいるうちから、学校卒業後も地域の中で自立して生きていく人を育てる。共生社会を作っていくのは、障害をもった子供たち本人である。だから学校は地域へ積極的に出ていき、それを継続していく。地域の人が障害をどのように理解するのか、出て行くことや防災やキャリア教育など、すべては共生社会へつながっている。

校長：自己評価が高すぎないか。ほぼABで達成では、目標設定が甘かったという見方もできる。もっと厳しい目で、よりよい経営を目指していく。

(6) コンプライアンス委員会

副校長：今年度の取り組みと状況、来年度の取り組みを説明

委員：職員と利用者の二人だけにならない、第三者も入り冷静に対応できる状況を心掛けている。

外部講師からのアドバイスで、言動がきつくなったとき「やさしくね。」と第三者が言葉をかけることを取り入れている。その一言で冷静に客観視できる。

職場のちょっとした不注意からの交通事故があった。人身被害はなかったが、運転時は命を預かっているという自覚を強くもつことの大切さを教訓とした。改善点として「(運転中) 後ですむことは後でする」を共通理解した。

委員：学校や教員など公務員の不祥事のニュースがある。個人の自覚が足りないと感じる。公務員は、会社員以上の自覚や気配りが必要とされる。

委員：セクハラや暴力など、障害者施設の事件を聞くことが多い。保護者は、子供を預ける側であり、子供は話せない子も多い。預けないと生活ができないし、不祥事は一部の人や施設でのことだと、信じて預けている。監視カメラなども抑止力になるのかもしれない。

校長：組織において、見て見ぬふりや指摘し合えない関係はよくない。信頼関係あつての組織だが、みんなで気を付けて声をかけていく。そのためにも、自律した集団でなくてはいけない。

人権チェックシートなどは昔のやり方。話し合いでも解決できない。企業が取り入れているコンプライアンスの取組等を学校も積極的に取り入れていく。不祥事はいろいろなことが絡み合って起こるが、一人一人の心のゆとりや生活の充実を大切に、取り組み続けたい。